

平成26年度自己評価表

鳥取県立境高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	21世紀に生きる社会人として、生きる力と豊かな人間性を育成する。	今年度の 重点目標	1. 基本的生活習慣・心身の健康管理の確立 ・挨拶の励行と掃除等の取組み指導（声かけ等）を通して、人間性やコミュニケーション能力を高め、はじめある生活態度を育成する。 ・様々な教育活動の中で、自他を愛し、人権を尊重する意識を高め育む。 2. 学力の向上による進路の実現 ・授業の大切さ（学ぶことの大切さ）を実感させ、進路保障が図れる授業づくりに向け、授業参観等による各教科の授業研究を進める。 ・目的別クラス編成を軸にした授業内容や展開方法を工夫し、生徒が理解しやすい指導を行う。 ・明確な進路意識を持たせ、3年間を見通した指導を行う。 3. 部活動などの教育活動の振興 ・県トップレベルの実績を持つ部活動を維持育成し、活力ある境高を発信する。 ・生活指導と併進して教育活動をさらに活性化する。 ・学校生活の基盤である良好な人間関係を育成し、家庭と連携して生徒の指導にあたる。
	校訓 「文武両道」「質実剛健」		

年 度 当 初					評 価 結 果 () 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 基本的生活習慣・心身の健康管理の確立	○挨拶の励行、服装・清掃指導等を通して、人間性やコミュニケーション能力を高め、はじめある生活態度を育成する。 ○自他を愛し、人権を尊重する意識を高める。	○服装・頭髪は概ね良好であり、挨拶も良い。一部冬期の女子の靴下に違反が見受けられる。 ○遅刻延べ回数・実人数ともに昨年度より減少しており、時間厳守の意識の高まりが見られる。 ○生徒同士の人間関係の大きなトラブルは見られない。	○頭髪服装の違反者・遅刻者が減少する。 ○生徒同士、生徒・教員間の挨拶が日常的に行われる。 ○学習時間を含め、一日の規則正しい生活習慣が確立する。 ○自分と他者とのより良い関係について考え、自他を大切にする意識が高まる。	○教職員全体で共通理解のもと「見てすぐ注意・指導」の徹底 ○遅刻・欠席の多い生徒への面談及び家庭連絡・連携 ○授業開始までの着席・準備の継続的指導 ○人権LHRでの取組みを学校生活の様々な場面で実践させる指導			
	○環境改善や校内美化に対する意識を高める。	○電力使用量・可燃ごみ排出量ともに、平成22年度比3％減の目標を達成した。（電気6.5％減、可燃ゴミ36.3％減） ○クラス毎のゴミの分別状況の掲示を継続することで、分別状況は改善している。	○電気使用量の25年度比1％減（26年度から3年間で5％減）、可燃ゴミ排出量の25年度比3％減（26年度から3年間で10％減）を達成する。 ○ゴミの分別が徹底する。	○電気使用量・可燃ゴミ排出量・ゴミ分別状況の報告・校内掲示の継続 ○持ち込みゴミの持ち帰りの徹底 ○所有物の自己管理の徹底			
2. 学力向上による進路実現	○授業研究を進め、進路保障に繋がる学力を引き上げる。	○全国偏差値50以上50人以上の目標達成は、2年の国語の2回のみであった。 ○9月の授業参観旬間において、各教科で研究授業を実施し、授業改善に努めた。 ○英語多読・多聴の効果が出てきている。 ○模試結果の活用が不十分である。	○全国模試において、国語・数学・英語の各教科で全国偏差値50以上の生徒が40人以上いる。	○模試データ検討会開催・閲覧方法の改善 ○探究心・自発力を高める授業研究の推進 ○多くの生徒が英語多読・多聴に取り組める方策の検討			
	○授業内容や授業展開を工夫し、生徒の理解度を高める。	○生徒による授業評価の結果では、授業の分かりやすさや進度、理解度に満足している生徒が全体で8割以上ある雅、教科によるばらつきがある。 ○小テストや課題提出等により、基礎・基本の定着ができてきている。	○目的別クラス編成や生徒の進路目標に応じた授業を実施する。 ○生徒の学習理解度が向上する。	○生徒の実態を早期に把握し、クラス毎の授業目標や内容の吟味、授業展開の工夫 ○授業や家庭学習の取組み方の指導の徹底 ○小テスト・課題の活用し基礎基本の定着			
	○3年間を見通した指導により、家庭学習の習慣を確立させる。	○家庭学習の習慣が定着していない生徒が多く、学習時間も全体的に少ない。（家庭学習2時間以上：6月調査37％、12月調査50％） ○週明けテスト合格率は向上しつつある。 ○進路目標や意識がまだ低い。特に1年。	○生徒が進路意識を高め、各自の進路目標を早期に明確にする。 ○生徒の50％が家庭学習を1日2時間以上する。	○全職員による学びあう集団作りを実践 ○入試制度等の早期理解（2年前期）による進路意識の高揚 ○週明けテストの継続実施			
3. 部活動などの教育活動の振興	○個々の能力や適性を発揮し、多くの部活動が全国大会等で活躍することで、学校の活力を高める。	○全国大会出場者数は、文化部は目標を達成した。運動部は競技数は増加したが人数は大幅に減少した。（運動部12名、文化部102名） ○部活動を通じて集団意識の高揚、生徒指導は図れている。	○全国大会へ100人以上の生徒が出場する。 ○部活動を通じて集団意識が高まる。 ○多くの部活動が活躍することで、学校・	○生活習慣や学校生活への取り組み方の指導の徹底と精神面の強化 ○外部指導者の活用や施設・設備の充実による部活動の環境づくりの推進			
	○小・中・高・大の連携により、人的交流や授業連携・研究交流を充実させ、教育活動の活性化を図る。 *スクラム教育（英語教育強化モデル地域事業） *スクールプロジェクト（小学生との交流事業） *中高連携学力向上プロジェクト	○市内中学校や西部地区高校の教員を交えた授業研究会を英語科で2回実施した。 ○小学生との交流事業を8回実施し、延べ小学生270名・高校生164名の参加があった。各部の協力のもと充実した内容で実施できており、小学生の満足度も高く、高校生も小学生と積極的にコミュニケーションをとる姿が見られた。 ○2年生全員が希望により島根大学や専門学校を訪問し、学習内容の説明を受けたり体験実習等をおこない、進路意識を高める契機になった。 ○理科において、鳥取大学教員による出前授業を2講座実施した。	○中高で連携した学力向上の取組み（英語多読等）が充実する。 ○中高の教員の授業交流・研究交流が充実する。 ○小学生との交流事業への参加者が小学生・高校生とも増加するとともに、内容が充実する。 ○島根大学・鳥取大学・鳥取環境大学をはじめとする大学との連携（出前講座・職員研究等）が深まる。	○授業研究会・職員研修の中学校関係者への積極的な公開、中学校・他の高校で開催される授業研究会・公開授業への積極的参加 ○中高連携学力向上プロジェクトの市内中学校との連携実施により、中高間の相互理解・相互協力の深まり ○小学生との交流事業の校内体制の整備、部活動をしていない生徒への参加の呼びかけ ○大学等の出前授業の積極的な活用 ○大学等のオープンキャンパスへの参加の積極的呼びかけ			
	○PTA、同窓会等とも協力して、地域活動へ積極的に参加し、地域から期待される学校づくりを進める。	○書道部・吹奏楽部が地域イベントに参加しパフォーマンスや演奏を披露した。 ○運動部を中心に、PTAと連携して地域の清掃活動を行った。（112名参加） ○PTAの協力をいただき、学校行事や部活動の大会成績等をホームページへ随時掲載できた。	○地域活動に積極的に参加することで、地域からの信頼を得ている。 ○PTA等と連携した活動が充実する。 ○活動の状況を随時ホームページに掲載し、取組みを地域住民に積極的に発信する。	○部活動単位での地域活動への参加・地域貢献活動の実施 ○PTAと連携して学校情報・生徒活躍状況のホームページへの随時掲載			